

高台寺方丈

〔秀吉公朝鮮征伐し給ひて、御凱陣の祝筵饗応に設給ひし殿舎なり。他にありしをこゝに遷す。中間

は狩野弘意の筆にして、仙人の画、東西は了溪の画なり〕

随求尊〔同所に安置す、秀吉公の御念持仏なり〕千体地藏〔仏殿に安置す、政所公高台院殿の御念持仏なり。巡りの松

杉の画は古右京の筆〕小方丈〔上段は光明皇后の白菊の屏風をうつし、松の間には四季の松、左右の間には草花を画く、

これみな永徳の筆なり。又上段にある翠簾下の屏風には紅白の梅を画く、是古法眼元信の筆なり。住吉行幸の図の屏風

は土佐光信の画なり。又住吉汐干の景は土佐又平の筆なり。これらの屏風は小方丈に常に出す〕小書院〔探幽の画にし

て雪中の図なり。其次の間は風吹柳を画して古法眼なり。世に名高し〕数寄屋〔小方丈の東にあり、小堀遠州の好なり〕

秀吉公の影像〔御魂舎に安置す、唐冠持笏し給ふ、坐像二尺四五寸許なり。贈号豊国大明神は、後陽成院の宸翰なり〕

政所公影像〔同所に安置す、秀吉公の北政所なり。法体に花の帽子をめし、薄紫の衣に金紋萌黄地の袈裟をかけ、右の

膝を立、念珠を持し給ふ〕菊潭水〔御魂舎の前の水鉢をいふ〕安閑窟〔山上の傘の亭をいふ、利休の好なり〕政所公塔

〔山上にあり、法号は高台院殿従一位湖月禅定尼、寛永元年九月六日薨去〕天哉翁長嘯塔〔山上にあり、豊臣若狭守勝

俊世事を遁れて長嘯と改め、靈山に棲り、其先は尾州の人なり。秀吉公姻家のゆへに、早く拾遺を拝し、累て羽林次将

に任じ、若狭国に封ぜらる。和歌を詠て其名を顕す。靈山より大原野にうつり、卜居する事凡二十余年、遂に慶安二年

六月十五日卒す。遺詞によりて高台寺山上に葬る〕

抑当寺は政所公まんどころの御本願にして、慶長の頃の御草創なり。方丈書院魂舎中門等は多く政所公まんどころの殿舎を以ていとなむ所なり。花美壯麗筆墨に尽しがたく、其奇觀の十の一を記すものなり。余は山州名跡志、あるは前編などにて応照合て是を見るべし。

高台寺十境　白山嶺　菊潭水　岩栖洞　蟠蛇池　湖月堂

安閑窟　相■墳　双林溪　祇園林　長楽鐘

崇徳馬場しゆとくばば

〔古は崇徳院宮安井光堂の北にあり、後世今の地に遷す。初は大廈にして封境広し。鳥居は東面に立つて下河原しもかはらにあり。其道の南北に並樹ありてこれを崇徳馬場といふ。応仁記おうにん云、粟田口あはたには長楽寺光堂崇徳院と云云〕

桂橋寺けいけうじ

〔むかし下河原しもかはらにあり、旧地詳ならず。此寺の本尊は觀世音なり。今四條建仁寺町けんにんじの辻仲源寺つじちゆうけんじにあり。熊野の謡曲に、寺はかつらの橋柱と謳ふは是也〕

靈山寺りやうせんじ

〔靈山こくあ阿堂だうの南にあり。見聞隨身抄けんもんずゐしんせう云、元慶八年甲辰建靈山寺。日本略記云、寛弘元年三月八日靈山寺

供養〕

本尊阿弥陀仏〔惠心の作、立像二尺八寸。法然上人持念仏〕

円光大師像〔御自作、七十二才の影なり、長一尺五寸許〕

〔黒谷上人伝云、元久二年正月一日より靈山寺にして別時念仏を始め給ふ。寺説に曰、北靈山寺南靈山寺の二ヶ寺あり、中原氏の寺にして、師尚朝臣代々の墳後山にあり〕

拳白堂旧跡〔靈山惣門の外ひがしの上壇の地なり。是長嘯子が閑棲し給ふ所にして、拳白集を撰し給へり、故に

名とす。又歌仙堂の趾は国阿堂の山上にあり〕

拳白堂のまへなる桜を

拳 集 年へたる宿のさくらのおもはくにちらずば外の花も尋ねじ

長 嘯

東山に鳥羽觀と名づけける庵にて

同 見はたせば鳥羽田の面の霧の海に沖の小島は秋の山かな

同

東山山家記（豊臣勝俊）ひんがし山の麓、靈山といふ所に幽居の地をしむること有。〔半日独笑〕まへに谷あり、長

嘯橋をつくる、行こと百さかあまり。〔寄亭歌仙堂〕またしりへの岡にたかくつくれるもの待必と名づく云云。朝

ぼらけ云。そり橋をわたりて影先生をかたらひつゝ、松洞堂をのぼれば。〔惺窩文集注云。長嘯半日独笑長嘯橋竹

林寄亭在_ニ靈山_ニ建_ニ松洞台_ヲ。歌仙堂松洞堂待必鳥羽觀_ニ拳白堂_ニ。

羅山文集〔春日奉_レ訪_ニ長嘯公靈山_ニ〕

八坂東辺小路分_ル。春風花木向_ニ攸々_ニ。

我来_テ竹下_ニ問_ニ青鳥_ニ。君在_テ山中_ニ臥_ス白雲_ニ。

長嘯軒東山の山庄にまかりて

黄葉集 庭の面にをのれとそよく萩原は秋風よりや生始けん 光 広 卿

若州少将靈山の山庄にて和歌会興行あるとて、

題をさぐられて侍しに、橋上初雪

衆妙集 吹おくる雪のしがらみかけそめて夕風しろき谷の柴橋 玄 旨

活所遺稿〔飲_ニ拳白堂水_ニ〕

路入_テ東山_ニ七月寒_シ。佳人世外坐_ス雲端_ニ。

一盃_ノ拳白堂前_ノ水。便是_レ仙家_ノ承露盤_ニ。